

10 / 1

自転車で全力の戦い 繰り広げる



ゴールを目指し、力の限りペダルをこぐ参加者たち

町教育委員会は、佐比内サイクルパークで「クライム・スプリント紫波2017」を開催しました。ロードバイクの部(競技者クラス・一般クラス)と一般自転車の部に全国から27人が参加。自転車で全長230m、高低差約15mの上り坂を全力で駆け抜けました。青森県弘前市の佐々木一穂さんは「上り坂はすごく急で、走り出しが特に大変でした。短距離のタイムを競う大会はなかなかないので、新鮮で楽しかったです。また、振る舞いの豚汁もおいしかったです」と充実した表情でした。

9 / 23

「水分まちづくりの会」が元気な コミュニティ特選団体に認定



藤田県政策地域部長から認定書を受け取る坂本会長(右)

水分地区で地域交流の活性化に取り組む「水分まちづくりの会(坂本好司会長)」が県の「元気なコミュニティ特選団体」に認定され、9月23日にサンセール盛岡で開かれた地域づくりフォーラムで認定書を受け取りました。町内の認定団体としては、佐比内金山太鼓保存会、NPO法人紫波さぷり、山屋夢楽づくり実行委員会、長岡ゆめプラン推進委員会に続き、5団体目。藤田康幸県政策地域部長は「地方部への移住や定住の切り口として重要な“住みたいと思われるまちづくり”に皆さんの活動が必要です」と期待を寄せました。

10 / 15

水分地区の魅力が 勢ぞろい



水分地区の郷土芸能 宮手鹿踊

第6回水分公民館文化祭と第3回みずわけ秋の感謝祭が同公民館で行われました。公民館内で行われた作品展示や活動発表などを楽しみに、大勢の人が来場。この他、屋外では地元産直の農産物やJA女性部の手作り雑貨、震災復興支援として大船渡市のホタテなどが並びました。水分地区の野村タエ子さんと野村栄子さんは「餅振る舞いや宮手鹿踊を目当てに来ました。歴史に関する研究発表などもあり、とてもためになりました」と満喫した様子でした。

10 / 15

新そばを堪能!



組合員からそば打ちを教わる参加者たち

稲藤第一農産加工組合(西在家悦子組合長)は、ラ・フランス温泉館交流プラザで「第12回新そばまつり」を開催しました。収穫したてのソバでつくる新そばが約600食提供され、来場者は新そばならではのつるつとしたど越しや風味に舌鼓を打ちました。この他、そば打ち体験やそば早食い大会などの催しも実施。そば打ち体験をした八幡平市の高橋猛夫さんは「新そばはコシがあってとてもおいしかったです。自分で打ったそばを食べるのも楽しみです」と満足の表情でした。

10/18

おいしいリンゴを がぶり!



おいしそうにリンゴ見つけたよ!

子育て支援ボランティアひよこひろば(佐藤隆子代表)は、古館地区の農園でリンゴ狩りを行いました。参加した親子37人は、それぞれ赤く大きいリンゴを選んで収穫。その後、採りたてのリンゴをみんなでおいしそうにほおばっていました。古館地区の館澤いずみさんと京心菜ちゃん親子は「2カ月の頃からひよこひろばに参加しています。お母さんたちの輪が広がりますし、今日は外に出られて子どもも気持ち良さそうです」と話していました。ひよこひろばは今年で20周年を迎え、11月22日(水)が400回目の開催となります。

10/16

えひめ国体でも活躍 紫波総合高校自転車部



(左から)佐美教育長、佐藤選手、中野選手、熊谷町長、顧問の鈴木孔明先生、渡邊好章校長

愛媛県で開催されたえひめ国体で優秀な成績を収めた紫波総合高校自転車部の中野慎司選手(3年)と佐藤威吹選手(2年)が、熊谷町長と佐美教育長を表彰訪問しました。中野選手は少年男子スプリントで見事優勝。男子チーム・スプリントでは6位の成績を収めました。中野選手は「スプリントは相手との駆け引きが難しい競技ですが、自信を持って戦うことができました」と喜びを語りました。また、少年男子ケイリンで4位に輝いた佐藤選手は「上位の選手は強く、自分の力不足を痛感しました。来年は優勝できるように頑張ります」と意気込みを語りました。

10/27

南極の世界を体感 約2万年前の南極氷に触れる



南極氷に水を入れ、中の大気が弾ける音を聞く児童たち

星山小学校(三好博校長)の5・6年生15人は、南極観測隊の活動や南極の自然環境を学ぶ授業「南極クラス」を受講しました。この授業は南極での活動を伝え、子どもたちに夢と希望を届けようと県学校生活協同組合が主催し、東北ミサワホーム(株)が運営するもの。南極地域観測隊として基地の建設に携わった井熊英治さんが講師を務め、マイナス30度の南極での暮らしや、隊員たちは職種を超えて協力しながら仕事をしていることなどを話しました。その他、児童たちは越冬服を着たり、国立極地研究所から提供された約2万年前の南極氷に触ったりと、南極の世界に浸っている様子でした。

10/24

地域の今と 未来とを考える



それぞれのアイデアや共感した点を共有する参加者たち

町は、佐比内公民館で小規模多機能自治について学ぶ「ちいきの未来を考える勉強会」を開きました。最初にNPO法人点空社代表理事の宮崎道名さんが講演。地域住民の生活の質を向上させる「地域づくり」が重要であり、安心した暮らしのためには地域に合った手立てを考える必要があると強調。その後、参加した23人は映像を通じて先進地の取り組みを学びました。佐比内地区の多田美恵子さんは「いろいろな人の気持ちや考えを聞いて勉強になりましたし、刺激を受けました。勉強会など、さいなことの積み重ねで地域とのつながりも深まっていくのでは」と話しました。